

建設会館を建て替え 来12月完成予定

県建設業協会(青柳剛会長)は17日、老朽化のため建て替える群馬建設会館(前橋市)の基本設計を明らかにした。2018年12月の完成を目指す。建築の価値を表現し、建設技術の発信拠点とする。

現会館は1973年に建設され、ホール棟と地上4階の事務所棟からなる。大規模な耐震対策が必要だったことから、県建設事業協同組合と連携し現在地での新築を決めた。

6月にホールを解体し、業務を継続しながら工事する。新会館は地上3階建てで、延べ床面積2936平方メートル。上空から見るとL字型になり、1階に協会や組合が入居、2階に会議室を設ける。3階には県農村整備建設協会などの団体が入る。

協会は同日開いた定時総会で、青柳会長を再選する役員人事を決めた。任期は2年間。5期目となる青柳会長は本年度の方針として、技術者個人名を入れた銘板設置拡充や、働き方改革として週休2日制の実態調査などに取り組むことを説明。「入って良かったと実感できるような建設業を目指して協会を運営していきたい」と述べた。